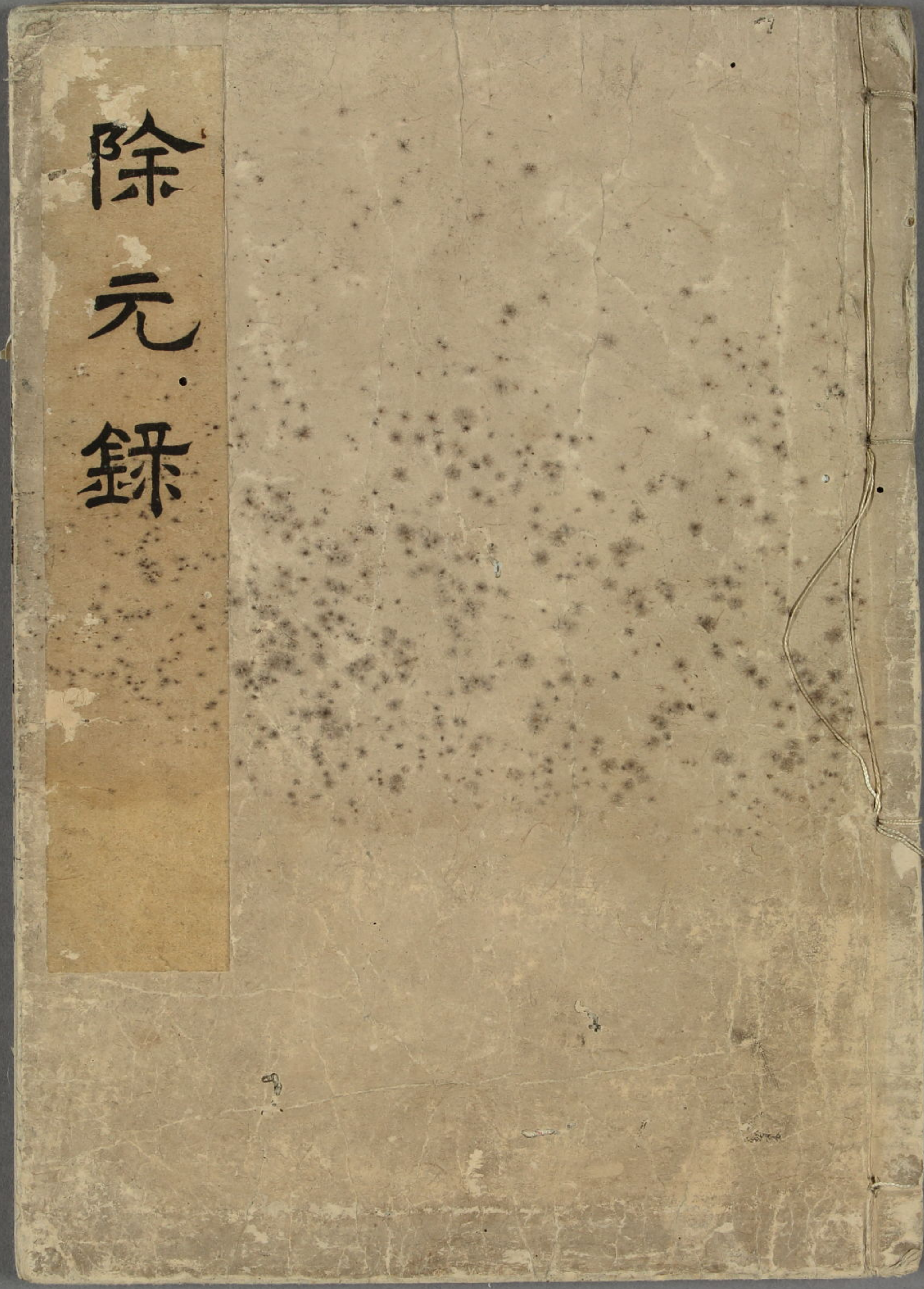




除元錄



安永三甲午

歳旦

丹頂や赤千壽成足尾

一草舎

屠蘇の久

養古

子代を傳ふ好異いゝ白

石鼓

治存の鼻小短冊

跡の山

序南



其二

く川 結者多水も立血平

鷺暗齋

序南

福

笑ッ ちやお事ぬ万葉乃顔

類古

作窓 子も蒙求と

咄

不致

其三

幼少 勢もや春の序成り

屏牛庵

石鼓

玄園日記

海老と奴も巧くさるる候

序南

さくさく 達に狐火 又く

類古

夜とさあ

立春在臘

年忘是基よりも春はあ

もくちり人

序南

早暮

誰か月を梅の脣を紅粉

石鼓

全

舟連して紙を年北詠も

ま川野山

類本

歳旦

風粟菴

矣四方より山より云々の朝日暈

萱子

歳暮

波をよちと嬉しくるやうの風

全

春與 玉津堂縁道軒

いさ吹りハ和風の柳の行如浪

全

歳旦

蘆葉菴

明の春とくは一亀の

字本可那

呂陽

歳暮

光陰の鞭月追ひて
世と此風葉と名に

瀧馬の尻叩く

師走可那

全

上元

粥の肉より不平因の秋る川 石鼓

細鬼

細鬼や頼又の仔細ハ九祿 全

歳末

深もや雪の街の月と候に 全

元旦

岡橋氏女

松の香ハ本意ヲ又ハ

操文

可那

初九結と祝

新橋—河内のもち

全

若

聖節

五三の松のつゆ

五粒

歳暮

真塗の皇子階

全

元旦

立松ハ神の鏡

言

歳暮

あまの市や年のつゆ

全

歳旦

法白跡ふや鏡の天下一 夢

年尾

羽之ハ大ニ平日ニ為ルハ
多量ノ多引ニ於テ以テ
物事ノ一トハハカクモ
物事ノ一トハハカクモ

歳一夜 静夜や静夜そのノ静

全

春興

喜柳や廿二季以のこれ盤 一草全

歳旦 四半賀する何也

由龍斎

了志との廿二季を以て此の春 十草兄

歳暮

正月の結納やあし上 降り賣 全

年内立春

冬千春海へ集飲や天下願 全

七加時

孝も前黄々々那也はるををりぬ

賛御

年内立春 是江社系の鐘

住りやりの松古の松 流 立

聖節

親族の睦も厚し 歩 指 里洞

守歳

鐘のなるの跡る 等々年々 行 全

春興 春々々

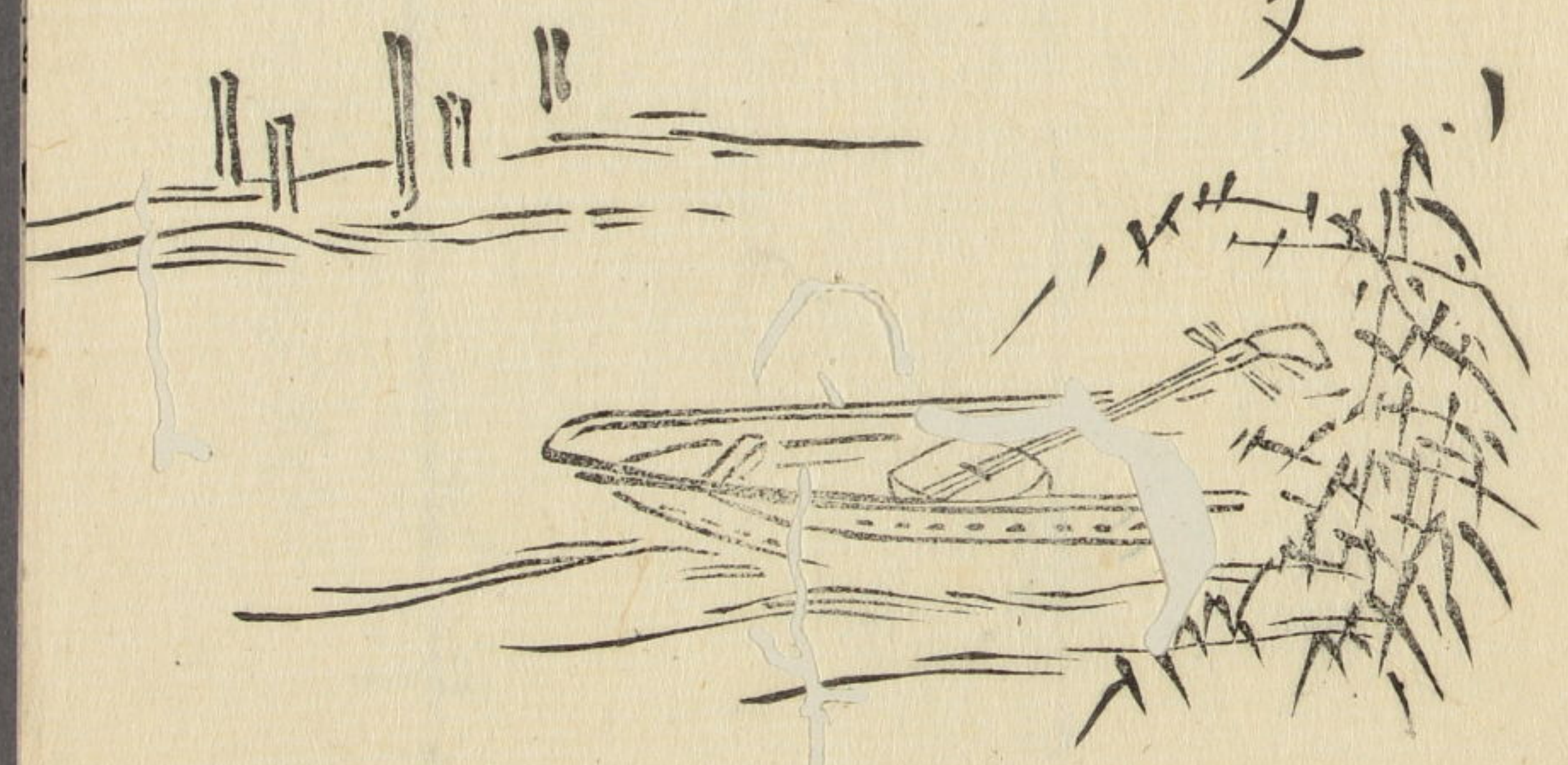
標文

本々々

亦

比丘尼

亦 亦 亦 亦



歳旦

抱月亭

鬼杖

咳やけ花の節去

山ろく

歳暮

丁も負け笑を着る

全

くいの名

去る具

香く去る身くむ去の

全

花の園

又

明星ハ夜千明く

全

去るのむ

人日

策去も鶴の松ひや若菜梅 是山

杏真

白く勇気は波や柳の棹の歌 全

節分

月星白袖音研りやと一男 全

早来梅

年の底の衣裾く梅は白ひ川 全

了去社系

香そ高し一葉子依

作け

齋持

秋

の梅



一 歳中清松より

新年外道ふ

水花亭

きん 人さや喜すの侯め 松飾 麥甫

歳暮

鳥よりハ 歳を忘る年

年の坂

全

伊籠の陰

昔より 移る 流をそ

林の志

全

歳旦

産り 遠山 雨田の初をい

箕岳

年尾

吾れ 去る 乙 子 善ぬ

全

新旦

白梅や 益々 云の 朝佳め

李光

歳暮

おとし 玉子 みる 年 卯 大 三十日

全

歳旦

あつたけ蓬萊山の神日ふ

宗那葉

年尾

冬時やくしり年の日のゆき

全

三朝

初日のや葉、増ん生の小松系

羨英

四歳

周と、追ふ年の鶴子の舞う那

全

歌僊

十女

於年與やうれ女此遠の白ひ中

萱子

揺うけあのかきそかく文

菟古

墓 供年十あしうすうこま

君竹

さる持子とんえ 紋車の音

石鼓

月こやうり水尾千あまの梓のあ

妻申

う 危多く加勢一葉ちる那り

拙筆

露さみ孫、まけこやと志

古

弟 鞋とけい 杖う 貝

竹

漸し如く夜半ハ淋き牛婦人
 疎む奈少疎 呼声途
 其後ハ赤書も何れも断
 前も紫毎年 朱あき年
 凡心ハ快 静平 空々 骨の霜
 蓋何れ井戸の水平 蓋平
 鏡と手 眠れハ 翠桂 掛月
 甫富く 暮日 飛の如 樂下
 乃子や 恙り 山を 玉の 岩
 葉一ハ 換 裏と 如 旅

子 甫 教 子 甫 教 子 甫 古 子 教 牛 甫 子 教 甫 子

紅粉ハ 何年 紅粉 深き水
 一生 富者 女十 一ツ 足
 唐詩の 杉と 目高 平日 玉 楽
 水も 腕 車 嬉むス
 白 纒 手 衣 声 取
 花 人 形 ハ 舞 舞 舞 舞
 踏 け け 啼 殺 々 々 萩 の 玉
 先 斗 所 々 々 踊 細 々 々
 借 一 平 暮 々 々 丈 々 々 月 々 々
 梅 枝 々 々 見 月 の 忠

古 牛 教 古 牛 子 甫 教 古 牛

朝新波了あきの白名をそと舟
 書写すも意く花むらり
 声んと叫ん春ハ吉日の名所親
 人手嫌われ山平城の雲
 天光の一派奏盤の影松
 招きス春細の流るるを
 松て那ー花の糸すハ花の糸
 裾も永くとい日の歩り春
 古 牛 子 申 鼓 子 申 教

歳旦

門松止水毎くの
 海士寄
 多結う
 富古

よる魚の水もり子
 春水
 春嘯

几中登り風の古か
 名水止
 琴舎

其二

扶英改

英之北 昔年出るとる尾勢

琴舎

五川霞

男物と有

花 閑く春

富古

酒 様嫌 形 手 様 の

春 嘯

色 う り 多

其三

号 々 集 代 号 々 含 々 々

春 嘯

吉 素 几

飾りの中の

海老の松の香

琴舎

ま 々 入 々 々 々 々

穂 々 々

富古

山本音

梨房と可れい詮部
古曆

春嘯

鳩のふゆの多治と後る
少幸爪
琴舎

以とよも 鶴も地川平
宇太
孫休洗心

山椒旦

老尼

香のる 香のり 女 正富
千柳

元旦

女

大空や 空もとりり くの明
正富

年内立春

行年や 多々 一ふく 花をる
全

三朝

邦 茅の里 孫の流 心の明の春
松羅

古

歳旦

甘路野畑

君竹

純い拍の司りしや
花のや

除夜

年の水尾来届や
宝船

全

年内立春

乃水氷之日は
多る

全

春真

松と枝風の管や
喜拵

全

全

永き日の胸中
午時の鐘

全

全

東風吹や梅の枝
鼻の穴

全

九朝

閑寛所

山崎とふ奈塔子

新才より

羽六

ふり井もれ新玉川也

むらと月

除夜

推ん歌く春ハ即一年の
各門奥

全

年内立春

くーのころ子丁也去る魚

鏡の面

全

九朝

石谷氏女

子代ハ子世集と島巻の

東雲

明の虫

節ふ古四日行

節ふや福の肉行

地蔵歌

全

元旦 修吉年終

新之節の恵みの初日 全

歳暮

天の恵み千々柳の
成鈴する子実実
あるありや日月の丸も
実実の秋暮とあり有
能き日のえと短ひの句を逢

実所存心丸一 鏡 全

元旦

己のこゝに忘れ勇むや年終春 白綺

歳暮

暁搦の杵や暮のふ 全

歳旦

こゝに接や豊の暮年 明の全 松馬

年門立春

早暁の暮や春所ふ 春の中 全

十古

帆、江中、信り今ふ 全の全 一全

歳旦

桃子

蓬萊の岩根の壁

の甲

歳暮

師走の年白の車の

全

工合可那

歳旦

如亀接

有能一母と初日の七光り

猪支

年尾

腰裏の年波の海士の門

全

立去在籠

立場より師はを井や

全

元旦

揮月亭

晴る朝もまほ

明多公

其ノ

仲春時

きさきさやうり

草舎

歳旦

市中菴

月と日の名を新煮の

愚口

そちお可那

歳暮

昔より伝 招 招 やとりの

全

思ふさう

立春在孫

相せり 中より 瓶のる川 産

全

歳旦

吉田

魚朝ハ 非代を今とどく多

鱈春

國盤 立ち ちり 我賣

全

春より 産の 紅毒 咲けけ

全

年内立春

その内 春時 ちり ちり 男

全

歳旦

月玉の乃志久やうと書師

墨人

歳暮

川口も白一 穀作の米洗ひ

全

春興

少きく北纏いよけよ梅の玉

全

形跡人

尺てふぬやきれハ梅のP 継

一草舎

歳旦

含章堂

恵方并 逮くやや物日新

石麻

采巻

竹とややくも首危能く腰下

全

元旦

袖中や 踏更のやまむ 生駒山

何虹

年内立春

行着る今 心行去年や 梅の香

全

全

仮り梅やむろの梅 此より名

一草舎

山歳暮

伊賀橋々掃々々一年の後代

蝶宇

歳旦

ゆきーろや三子浦迄の三の

蒲菰

明

早末

海系や年の明崎の路野

魚丈

早旦

川馬や加指のろゆ保ま川旦

三宅

塩布

早暮

取替切片荷干李や年仕也

全

春典

春風やまら跡もや才

蜜柑

全

早旦

九日や所つ才國古のふらう種

布舟

早暮

面白くもこれや

混本交

全

九日有感

木林

心とろまのみに響境や玉の春 如水

九日偶成

木林

初東風のこやち梅いとほろ 米例

歳暮お書畧

比戸の浦と川も性来や版りあり 全

凍解

條川や梅子雪とくも結る縄 一草全

去真

今宮や十日所よりも梅の人 葦英

元旦

心平穏すわ
る所より

戸や玉の金谷へ東風も物より 孤峯

歳暮

所や竹もはきく繪とくも 木地 全

人日

三節子生時去より頃 四三 讚尺

春興

石雲菴

梅咲やいづこに清き竹の石 一邦

全

積小館

去り居や柳千枝千の 松卦

年内立去

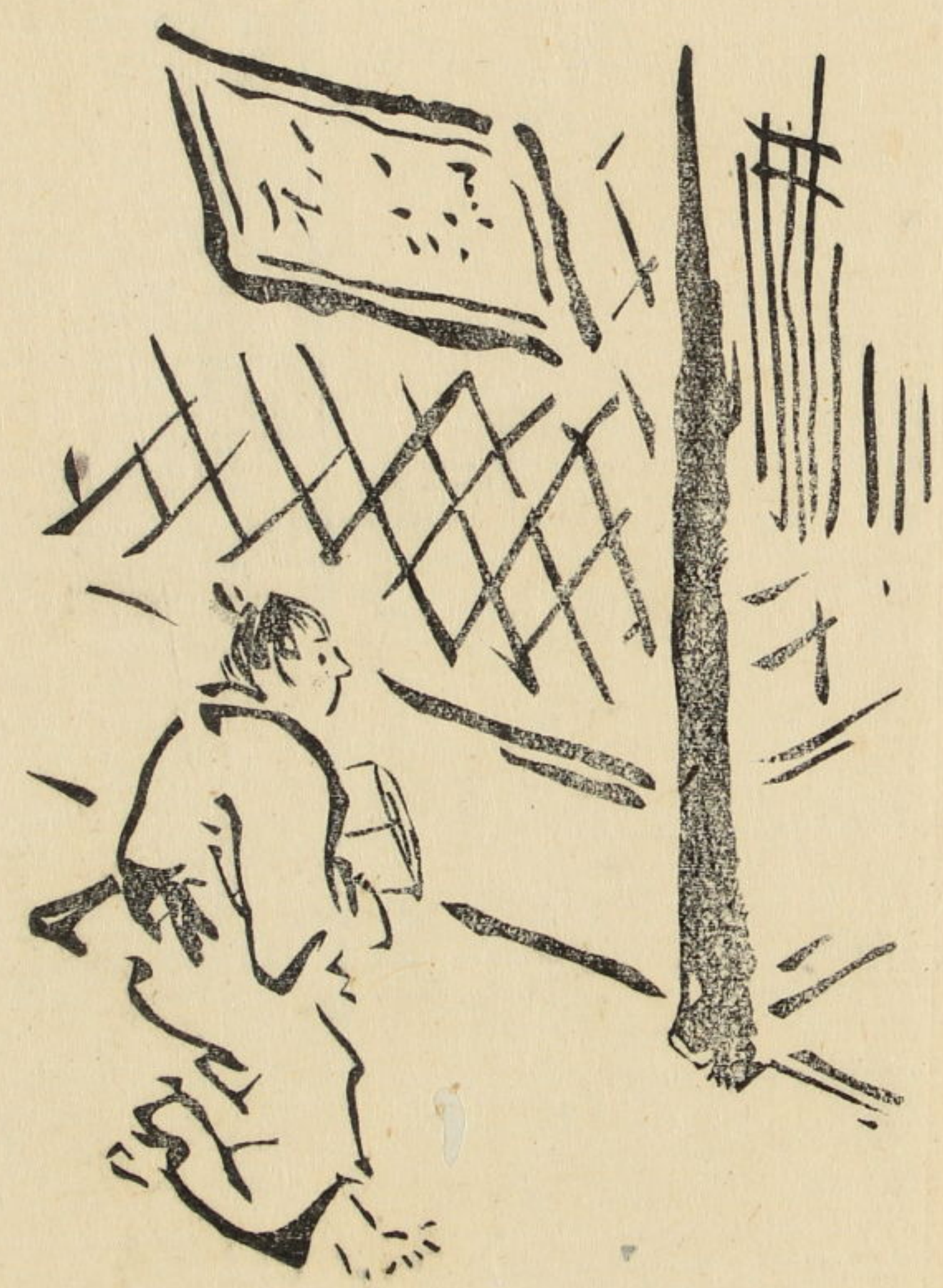
安眠堂

去や羨るうらやと北

多玄未生

随流

春興



去の白年

去川夕那才

在う那

黄鳥閣琴舎

春風集

風巢令

抄

小紙句

磯石美川

毒の花

歳旦

梅の枝より物多様し・春の去

裳花

歳暮

年の矢の光り益しく入日新

全

歳旦

伊社の境の名多し・明の春

揖粮

年尾

若くは志ハのほきや年鏡

全

寄孝慈

心子と云くを舞くは云くは舞

一草舎

歳旦

歳暮初日のまじりの

儿書

せん可那

歳暮

月正一也ハ白くと

全

年の倍

歳旦

起鳥森

智仁勇淑く年や甲ハ酒 可山

系坂系唐も三秘抄 全

志延田際瀧り千信引水て 全

歳暮

皆に縁十告の首や所走市 全

歳旦

三好

山海鏡とくくを向ふ物日記

新水

早著

花城と跡元とくく人大平日記

全

予父の年辛云の巻終
近くはく又相やれハ

懼れハ喜ハ所那の所著之部

遠里

年月立去

高方棚ハ年の結納の燕屋

全

早著

長吉々為抄ハ去後後力

全

又好之

石谷

みつ鱈の

羽六

多平香平

春日興



粟尾

寛栗亭

多岐向くと年の後一の

栗石

都多

暮老塗

萱や水や淀の物一芝

杖丸

年の老

歳旦

今宮

元日やつれ神休の物一

亀由

粟老

と一やつと海もや年の日本橋

全

屋老の栞

死すのちとるいふ年本舞のむ

全

三朝

門老や三朝ほとくめカ疾

周工

節分在編

去子とと流るりたりや厄拂

全

西宮市立物

今宮

去々梅をとりしやけんきの中 常狐

歳旦 採物ん芽やんき
十をとり子

鷲...定之國...の朝 寛子

采者

子里...の... 信

歳旦

漲りや...の... 竜枝

九旦

田中

蓬菜や...の... 緑菜

若孫

年書

御...年の... 全

松の産

三十一

三十一
御衣を著る申子東武の御師國
ゆり古唐とてるる威名物
の合相送りありふり然るもの
珍物なり此の事ふふ修平信玄
がらと天王寺迄、

江戸の番を

南見

かーて芳ー

梅の下

郊外春

草の香や佳草の中平礼文了
東風そよよくと柳は緑小窓
汗田今も昔又入追う半けりそよ
阮子いろはの所かる嬉しき
心太是ももろおハ月の友
う 瑞さぬやあ、そよふの少は
爽り奇麗な風の音は流れ
きりぬ金子縮ふ一の換三

南見 石鼓 岸南 菊古 教 古 兄

永年一草の在る、豆腐賣
歩行、好やうと、物干し
月石、時正、女弁の、ふやう
境と、う、や、後朝の月
は、君の、古と、松と、色之、
舟、借、三、水と、物干
都、う、降と、お、う、物
月、休、達、う、う、う、禪、寺
花、の、人、四、う、う、う、百、余、殿
去、の、的、射、る、白、奥、の、征、矢
南 古 兄 南 古 兄 南 古 兄 南 古 兄 南 古 兄 南

那、の、中、う、う、上、の、毎、う、
非、崇、う、う、う、休、去、る
我、休、去、る、お、う、う、う、う、
新、う、う、う、の、中、う、う、う、
吹、う、う、う、の、柙、の、座、工、
掉、う、う、う、う、う、う、
殊、給、さ、の、所、う、う、う、
古、産、お、う、う、う、
凡、お、う、う、う、
新、う、う、う、
南 古 兄 南 古 兄 南 古 兄 南 古 兄 南 古 兄 南

陶朱之月々月々移りてをキ
 庭の隅々の中子端端
 何り子々々々々々小買柄
 他人子々々々々々大色
 東々々々々々々々々々川
 丁々々々々々々々々々々
 子々々々々々々々々々々々
 々々々々々々々々々々々々

古 南 教 兄 南 古 兄 南

古具

坊子具也

妓婦

半は粉の

平屋

きみ



春色

採文

花の香

被る地紙

採文

可辨



春真 旅行吟

尼 閑月菴

足跡を待たず 峠——、出筆

富古

採題 善文入

あつゝもの体古郷、春の女老成

全

春真

同 風生齋

小糸女やりしハ奈揚の肩れ人

春嘯

冬吟

吟味 竹葉之思々 嵐の禱 可辨

全

立春在臘

元 黄鳥閣

町波やふゆ平春立年の市 琴舎

人日

七種や結り君ハ後のもの 全

歳旦

同

九月や咲立ゆき平福寿中 笈沢

歳暮

鶴山やま〜〜年とる 千甚 全

歳旦

海士寄

初日のお國の恵もや木の影 笈洞

閑年

月世の一夜をさ〜北躍小 全

歳旦

同所

袖且襦、新酒の入津ふ 松庭

歳暮

来年の髪や去るゆりあ〜〜 全

年門立春

院孫平、梅の白ひや伊勢馬 全

談筆 雀とて
賀の河原

撰時友

書袖人多しとて此郡り雀の山

鶴知軒

者樹

老保

化中々今ハ孤も師をう那

全

歳旦

同

九朝や富士山をくく心指

葉行

大尾

一桶ハ湯垢離も信一年信

全

山殿旦

柳移す事有々 撰時友邑

後多す此葉一もやふの虫

規甲

全

全山田邑

人の凡の三里灸うは川見給

蜂僕

齋菰庭おす松を植れハ

一番平松すは芝の神日代

同 邨 猴月

穉末浪走りし時

みみくく喉の底

くくくく

蜂僕

年尾

戸を福を明け改書之

年の冥

知甲

立去在穉

年のうちとくの修促

たか白丸

猴月

歳旦

尼西名原

拍掌の光合やうふ物り

挺水

歳暮

けきもあ方平りし年暮如

全

元旦

時友村

年注のりりしや水や明の春

九重

年尾

讀ゆる年れと紙や山上

全

永日

第一が―折あす紙の風と切ふ

一草舎

元旦

泉佐野

樹西洞

戸秋

玉子の江や杉枝日影の

早よ月一光

山椒暮

樟原くわりの屋上休

子夜可那

全

春雲

花の紐多くう紙路の白拍子

全

白紙訂

姪女の子はけの西未指は粒粒梅と
なり大ゆり袖のそと切は赤破巾と
庵んー今ハ紙太郎の糸籠のそと
煙遠の友那りせと

讃州吞茶坊

東阿

指くせと

今が朝や

花のそと

玉具

洛陽

野の梅や秋のけしき老をり 甚目庵

全

城南大住

夢や法花讀誦の窓にあり 由地

全

同所

善文のや菘の中より 玉桂 御月

抄案

蕙葉舎

皆由子都を去の宵文の灯 私耕

年尾

洛陽

師をふや知る宇治川の橋の思 普之庵

春興

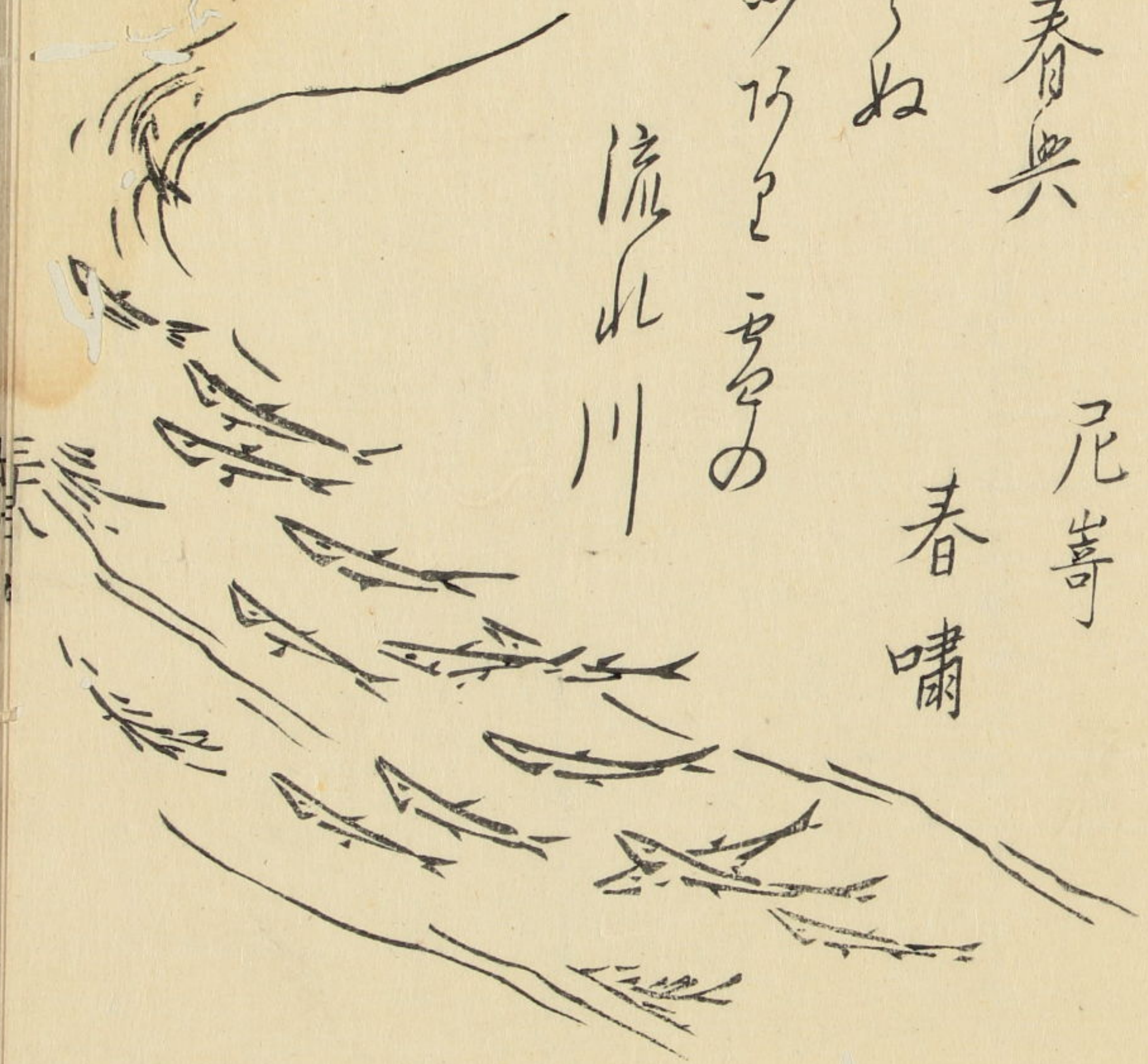
尾壽

寒あけぬ

春嘯

魚のしるしをるの

流水川



歳暮

松の木の山に隣り

竹尾橋

去る跡

歳旦

今も山を方々歩かす

一竜泉

雲郷

福寿の牛の木の花咲

山うら

元旦

河洲弓削

神垣の柳々の若さを神袴

壽山

年尾

林葉ふ花とを走るや大卒日

今

三元

時津風平白ひを雨の屑蕪のほ

亀口

墨書

去るよりの唇の波のをくもる

全

去る真

去る風を柳目正しき市の芝

一草舎

歳旦

明石

我物中して暮暮や初日影

管王守

歳暮

市人の多しく子の所を去

全

歳旦

同

天の戸を出る初日や人志ろ

鳳栖

歳末

年の去や的千切らちと太三十日

全

年首

和陽市尾

荆休菴

若も初解き何そひ川若志良辰

如水

立春在臘

猶も又やうあす年の去きうな

全

節分一盞祈禱さうさ

又今宵一語きりともりのま

全

元旦

同所

冬の日比りゆゆはなるとの初日

蘓哉

歳暮

春徂く枝千凍はく一花可那

全

四十三年の春成迄

和陽葛城集

豊田 吉村

ちの厄のむすふもや花の春 亀子

年内立春

きしの内たるの迄年終新通 全

歳旦

同ナカラ

未吉

あけのちのちの思や今朝の春 涼風

節分在臘

春成心下終の難喉孫ふ 全

歳旦

東讃津田

ちりや門のハ琴の波之 羅峰

年稍

節季のやめの人の殺り 全

歳旦

同所

喉神の福壽も草の松田彦 魯山

歳暮

日ハ東行夜やの未開紅 全

鷗目一

東護

千古唐

心多國や 注連と 戸の

裾帯領巾

閑居の 翠鳥

逕をとりあちこち 沙走

菴の林

春夕興

清うつ月の 尻も 膝もね

節分

全

全

歳旦

南紀日方浦連

市梅舎

文鶴

初鷗や 地々の 聲ハ

誰々 懐々 地々

解つる 芽草 蘇

志州らひて

夢く—— 仕て 丁と 大工も

か—— 仕也

全

土の車の残く迄も 同
君の志平傳ふにまじり 日方浦

いつれ新し居籾の志も隔さく 文立

鶉旦 同所

春平浪湯下る春の暖簾外 文里

朝森好め我もと銀又同所

起くと聲外振くり岩は春 土壺文

年尾

杓ハ飾、冬——年の籠 文里

全

と——の籠又浪風ハヤク 壺文

全

世古やくも濁川清新の川 文立

歳旦

南紀冷浦連

門雲の岩戸とかな報白うふ

桐井

全

同所

新しき春をふくむる日の物

芦滴

全

同所

往連縄の春も長閑し明の春

和秋

全

同所

九重も海山も日一花紅春

蓬例

春真

春うきや遊々くもゆるし

桐井

歳暮

山ハ笑ひ少くもそ年終ち夜片

芦滴

全

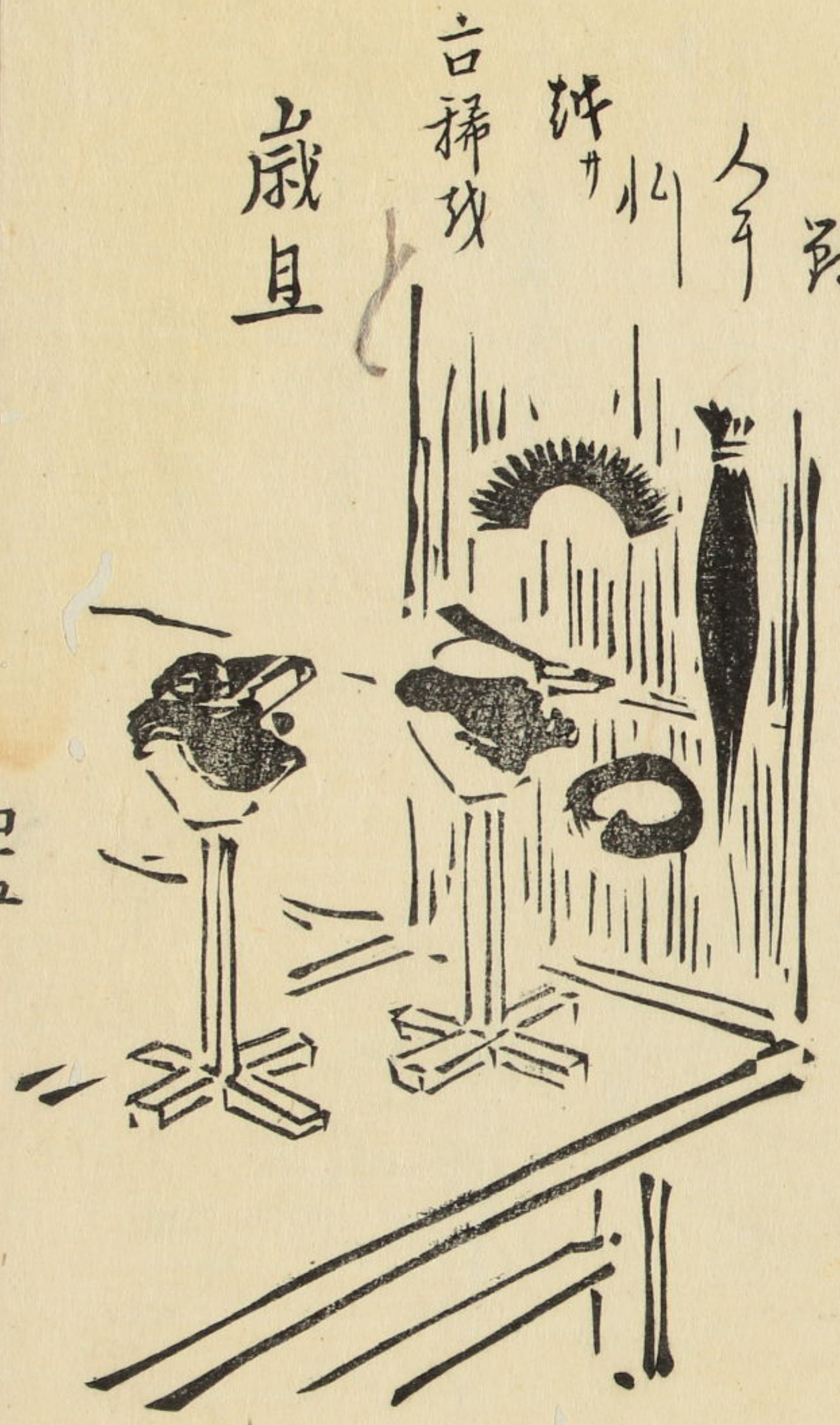
松のまゆもけきこりやスス日

和秋

全

既搦やそらもやあつと歸るもの

蓬例



歳旦

言掃攻

汗カ

今年

討して

何人

美やい

南紀日方浦

袖り影

雅后

節分

油をまく

南紀名高津

つれづれのハ乳母や喰ひ人

拾十

元旦

河品弓削

蓬菜の餅や一壽御慶う那

柯洋

歳暮

栲込の中やみりやと一北巻

全

養父入

やふや姉のふて少原迄

一草舎

峯且

勢よりも

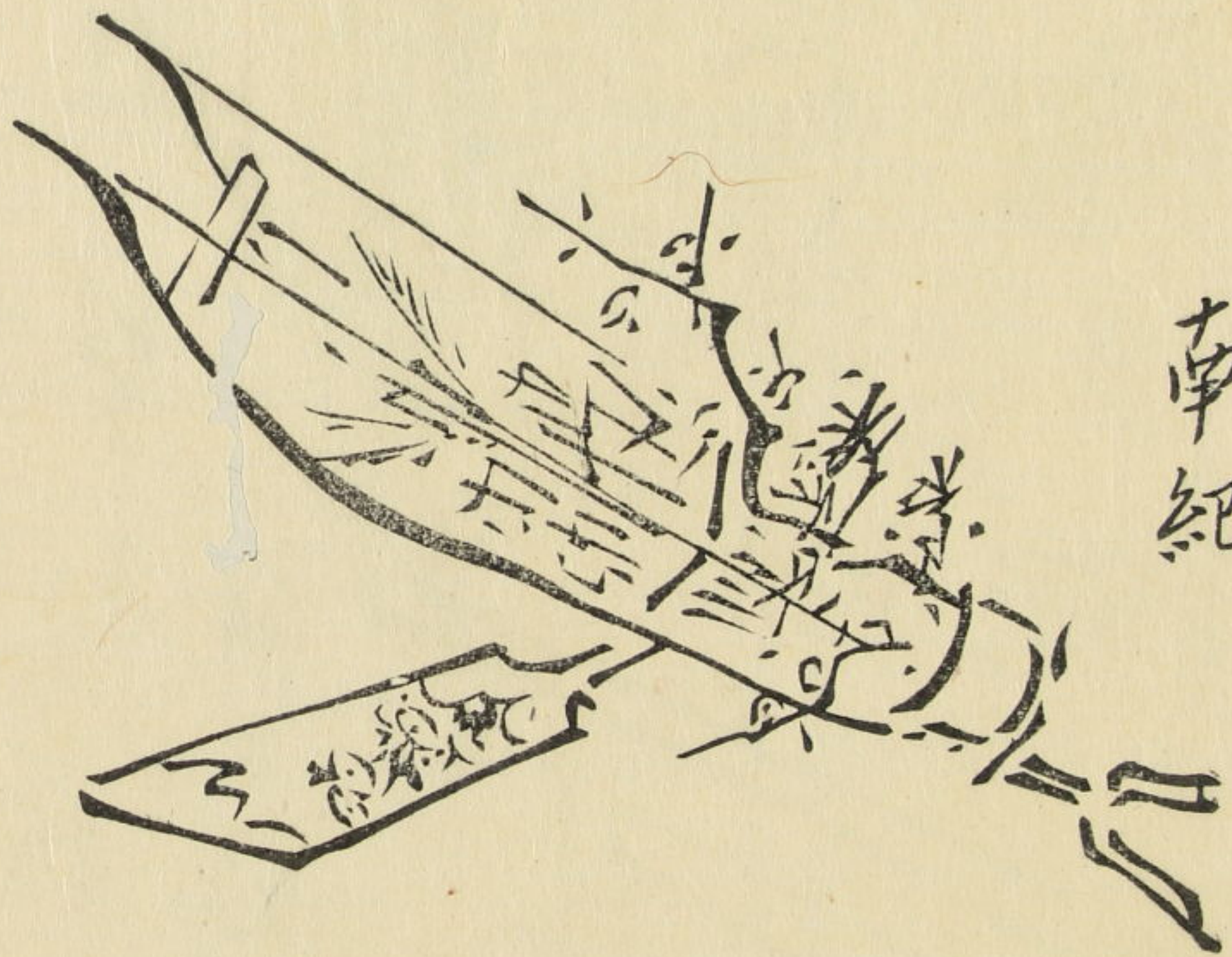
子年

起さぬ

物

ま

南紀



名を浦榎枝改

路十

春興

初 東風の

あや

ふく

帆掛船

南紀日方浦

一泡舎文泉



去真

吹く如日ハ

つゞけ
押也



少姑眠

南紀日方浦

一水菴仙枝

場



毒のど

おの其ま

おは切年

白糸川邊

春興

哥雄

春興

何處見之

石江村鶴阜軒

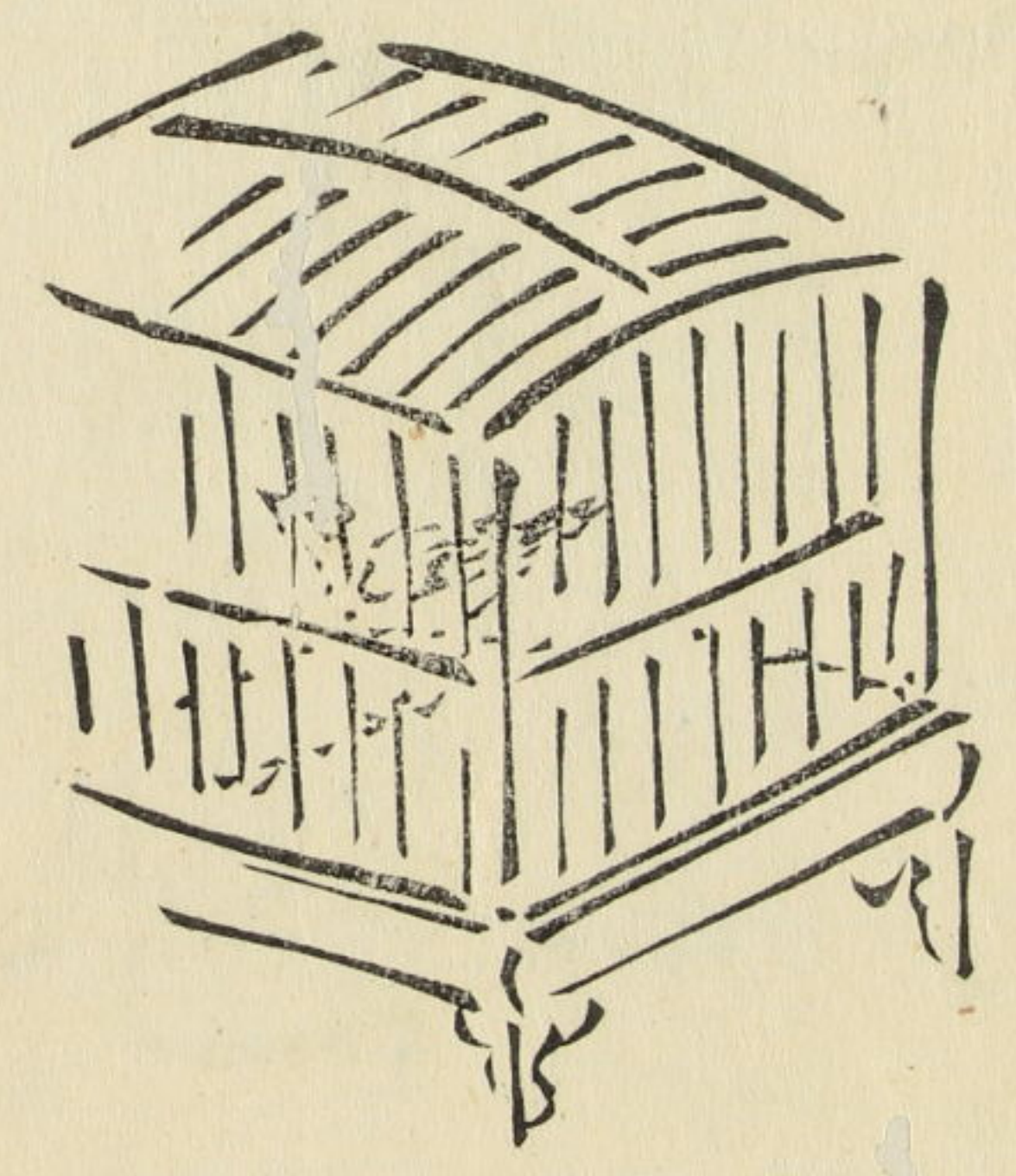
雲山

かゝる子

とよよ

はる

き

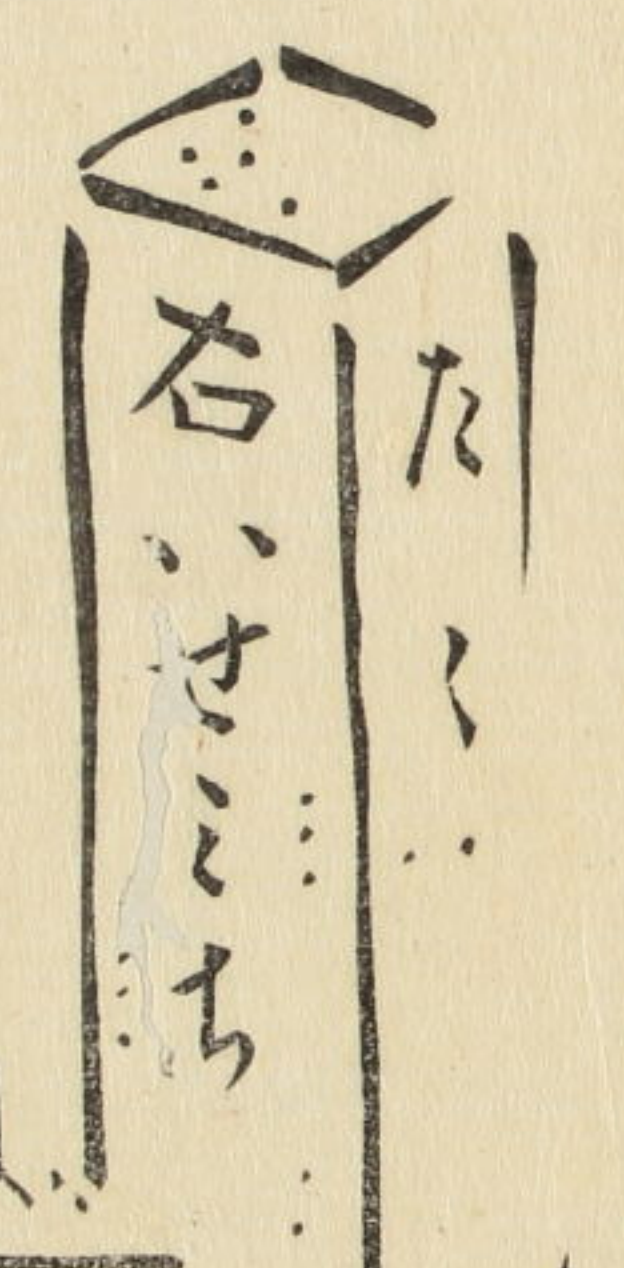


春
真

冠
ハ
州
年
も

有
ク

は
く
く



南紀日方浦一眼菴

以
蘭
翠

歳旦

家の藝りつても尚ほ花は春

周永

きんぼ

事多春を望むと松の宵化粧

玉郷

節分

おまよよのふちうんねや厄拂

中糸

鶉旦

物日産の松々招名——三番豊

連城

晩年

無造作に細工をやりそりの市

一笛

年尾

東風待や室の傍の冬仕也

鳳字

去真

去知ぬ花賣家の柳う那

葵之

歳旦

信の江へを軽そ筆入松の去

洪吾

中糸

小男を撰りたせ若者の御座

炉良

節分 去内へお糸と

玉の氷や内弁と年のたき

若徒

古風

早く暮の影は別れや大晴日

呂城

古風

むれつのみよふも梅の所々川

破年

冬

白梅や抄体已々陽の鞭

只直

探題落る

春もや人平寝ぬや布花

今英

古風

長きと止めてや春の物喜ぶ

泉明

古風

神楽や母体厚少々何所の人

白花

冬

春解や何れも親ハ何れもを

挿芽

歳暮

うー歌への連も定人年忘れ

山耕

年内立春

外とせぬ古とやいひとるり葉

言獅

春暮

呻聲や古中川市の町算

香橋

冬真

室出乃や櫻やふー梅の世

長信

歳旦

丹後中宮

見渡して子乃去く御小松系

鳥夕

年尾

み庭の月をさしやー起年始著

乞

春真

吹上るややー繁乃梅の世

右切

年門立去

春梅ふ年の個ややーの閑

雨曉

見立のにはすまじき

すまじきの隅くすまじきー猿拂ひ

千町

春真

風平眠る柳を起す葉乃

月系

乞

一家の丘高淋ー去乃

爛婁

梅

入る星の所と白梅の白ひ川

夢曉

急系

若眠るハ様申りやー仕也

雅卜

去具

春や水や草花下遊く組 亦規

歳暮 赤虫略

松や雪移る脚や年志 文賀

去具

道と賣多きく 緑治 鳥居

全

いと上りの赤書流ふ嵐の那 弥舎

歳末

候や葉も柳のち^倍いなり 屋久

風巻

去具

有隣改

去のりのりく 一 砂屋川 延年

早草

信の江の光くも 弘明地 時習

冬の陰

尾寄

枯草や氷の棚の下すれ 加幸

せん保

伊丹

漕りやわりの信路の綱子 真玉

去具

去程の道なき ちる二葉の心 有鳳

歳暮

福毒や陰奥より湧く雪り雪

舎仙

年内立春

雪も咽すんちやきー張山

胡徐

去奥

去く何琴弾山の糸阿ま

東弘

前分

菓の契も年と誰夜う那

賛夕

去奥

きさし起る足踏のそす巨燵川

仙橋

去奥

和陽御所

たけきききや身を海棠の花心

哉風

自紀の他客文藝蓬洲の西土
より唐と訪ふいあふ謝す

去奥のよきくく何々梅の心

箱古

又
梓花の姉らるるや振人

念

鶏旦

海土もと乾つてまき去とぼけの掃

性山

去奥

送り返ふと宵の年の後一書

念

賀朋友六十一

竹筒井

多々や電一足の男ふり

掬泉

年尾

福祿の刺人も噂のよりの者

浅井林

冬の鐘

帆柱の脛のりけりきり

狩信

以テ

楳の目や鯨の尾の尻掬

車足

箕俣田や

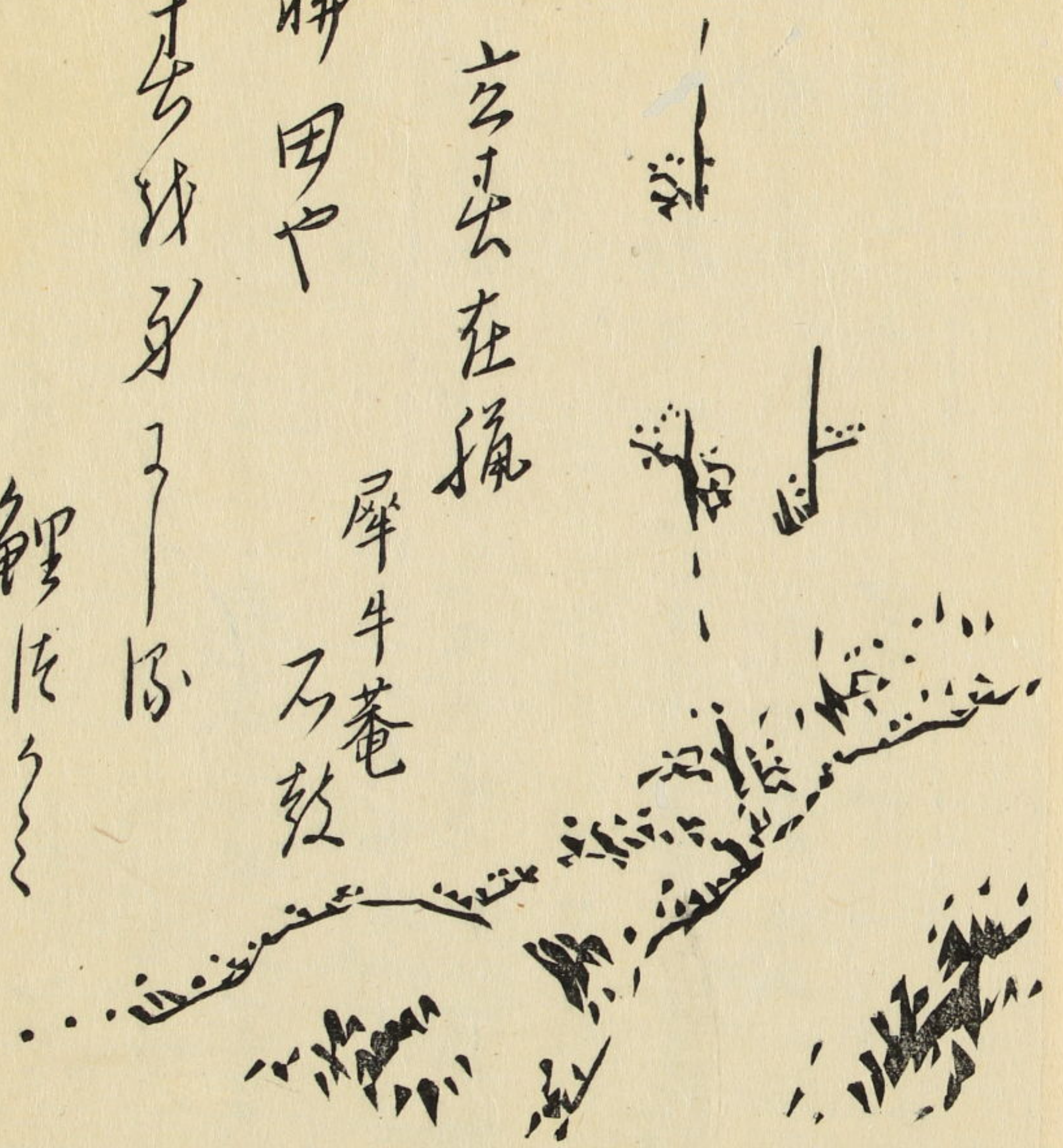
長身より

鯉伝々

玄太在籠

犀牛菴

石鼓



甘山保

八千坊

子如不煉さくふ金吉好む

野鳥

法得金

如片く城も我やうく子如互古窓

積雪

林く室

輪中下よの御よ 吾の弟 因桃

除手

蘊生彦

以くくと秋や降積とくを

栄堂

林彦

若くはまるとく一の栄堂此 棋北

人日

秋芳彦

押親や附る 藤や登隣 多角

久々吟

藍々舎

水節を路の福水ぬはり

子如日

東園彦

子の日 秋も水あう水川大内山 五粒

本具

得一彦

洗ふてハ本解く 厚の柳可那 雨鳳

人日

有隣彦

洗一場の菓子屋をりふハ本具 乃心

年内立春

十南芥

花の去り体むくく一本想 茶裡

梅

必彈指

去る梅や何れもこの山に何をな 吟真

玉子江の路

踏まふ知く青くく教 有端

了去時多吟

九苞堂

梅猶もく人洲ぬ日和那 馬常

年内立春

勃々庵

吾の喜ぬぬ心むくの所と梅子 桂室

去真

抱本亭

秋の青や柳画小般若捨 夷相

成山の夢と云ふ

風栗庵

上るぬと云ふを立高あかり 萱子

去真

桃恩亭

岩り持てすく総角の蕨川 朝車

去

玉座庵

魁の花やく好る吾の枝 馬馬

山殿暮

汝星庵

又師走也りくは早く燈籠川 白龍

古保

厚堂

忘れの心も忘れと忘れ 如瓶

去奥

求強齋

骨の若くもや竹の茂 州秀

金巻

二斗庵

入相やまの音も春の風 下物

秘苑

五彩堂

伶人の音も七あゝね福をん比 馬城

大尾

天真庵

神風や雲の如かりの雲 舎鳳

哥仙

白雪如埋と餘月夜鐘の聲 呂陽

火桶の中と午猫の沈吟 孫六

連を待川乃ハ草花の如く 東雪

茶糸当等も去ハ草の延 性山

遠山の夕陽を幕に月夜の宴 石鼓

如能見たりぬと云ふ、啼く 自吹

花明ハ人千歳とて喜と相争 簪春

日く車は 因一 花石 因上

山茶色の咲く唇下寒の紅粉
 伴旅多たぐめ朝西
 雨ん身と同一の昆布の塩
 けり角カの本丘下りく高
 りふハ先月下りけり基の務負
 おしはかるふとらめ一人子
 暮生の下間ハあや秋の風
 ずッるり〜け下向〜佳
 祀り〜修平名あけく花の林
 友とあふ〜去るを友
 亀由
 石麻
 蒲菖
 李光
 南兄
 琴舎
 春嘴
 写古
 鳥角
 上文

け〜りの毎日〜のぼる唐のあ
 何々追後 舌若く〜去又
 昔と移る物と若く〜赤隣
 九条の茶ももやま色加茂川
 秋立の鯉り使の意量ふ〜
 知ッその藤糸一真と〜
 行くッ月と加城の料理人
 淡子のち〜ア〜秋〜
 風の牙子入ムハ簪ツ〜時
 かし〜と名おる上上の琴
 菅狐
 桃子
 賛々
 五粒
 標文
 葎
 序南
 首樹
 白綾
 松馬

孔明々るりてくし舞有り

君竹

わーのつゆるを産持し人

麦甫

白きの花ふも又えりその母

里洞

六つげのやまハ大津給の鬼

松羅

名取舟り勿絶ましくも思をうら

旋水

安子よとて込中らる水の音

遠里

お願の山の勝示り花の炭

猪支

及者一むれを御ふ声

之厂

年内立春

一草舎

おれもせぬり常所り冬々の長

遷系附録

年内立春

洛

出登り花所りい所てを毎介り 春要畚

全

しそ凡や門去賣うろ窓限 竹芽

去具

若笠ハ彼居様々仲人ハ 全

歳旦

改り去系はくひや袖若菜 燕尾

山子

新

喜

掛

鬼杖

座儿可那



